

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 → 打合せ → 協 議	文書番号	3 7 7 2
		決裁期日	令和 7 年 2 月 1 0 日
名 称	令和 6 年度第 1 回安平町総合教育会議		
日 時	令和 7 年 1 月 2 9 日 午前・ 午後 2 時 3 0 分 ～ 4 時 0 0 分		
場 所	安平町総合庁舎 大会議室		
出席者	町 長 : 及川 秀一郎 教育委員 : 井内 聖 (教育長) ほか委員 4 名 事務担当 : 渡邊 匡人 (政策推進課長)、山口 崇 (同参事)、高橋 克年 (同補佐) 永桶 憲義 (教委事務局次長)、佐々木英生 (同参事)、小笠原 伴行 (同参事)、 前田 繁 (同課長補佐)、武田 一倫 (同課長補佐)、秋田 一篤 (同課長補佐)、 山田 頌 (地域プロジェクトマネージャー)、笹山 陽平 (同主査)、野本 貴 文 (同主査)		
会議概要	<p><u>1 開会 (進行 渡邊政策推進課長) (略)</u></p> <p><u>2 町長挨拶 (及川町長)</u></p> <p>以下、情報提供を含めた挨拶内容</p> <p>* 皆さまには、町政に対しまして日頃より多大なるご理解とご協力をいただいておりますこと感謝申し上げます。また、昨年 5 月に就任した井内教育長とともにCFCI子どもにやさしいまちづくりの実践をはじめとする教育行政の推進にご尽力を賜り、重ねてお礼申し上げます。</p> <p>* 昨年 1 月にゼロカーボンシティ宣言を行った当町であります。地球規模での気候変動を要因に、現在もスキー場オープンできていない状況、スケートリンクも一度はオープンしましたがその後は雨で休止。そうしたことを例に、施設管理が難しくなっている状況があり、施設のあり方についても今後お考えをいただきたい。</p> <p>* 昨今の明るい話題をいくつかご紹介させていただくと、2 月に行われるオリンピック予選にアイスホッケーの三浦芽依選手が選出され、2 回目のオリンピック出場に向け活躍中。また早来学園 6 年生の有本選手がアイスホッケージャパンセレクトのカナダ遠征のメンバーに選ばれるなど、部活動の地域移行などに取り組んでいる当町にとっては、三浦選手のようなトップアスリートにおいても、ソフトテニスや野球などの活躍も含めて地域スポーツにおいてもともに元気で喜ばしいこと。来年度はスポーツだけでなく、文化系の部活動の地域移行も本格化させるために高度人材型の地域おこし協力隊員の着任を予定するなど、引き続き教育活動の充実を皆さまのご協力を賜りながら図っていく予定。</p> <p>* そのほかでは、当町の道の駅が北海道開発局による「道内道の駅ランキング 家族で訪れたい道の駅部門」で第 1 位に選ばれた。再び訪れたい、トイレがきれいなどの評価部門でも第 10 位に選ばれた。秋には隣接地にはダイナックスさんのワイナリーも完成予定で、一層まちの賑わいが増すことに期待。</p> <p>* 教育を柱とした移住定住が功を奏している。3 年連続社会増を実現。現在はむかわ町とほぼ同じ人口になっている。来年度はアパート建設助成に加え、旧仮設校舎の町有地にアパートと戸建住宅用地を造成する予定。</p> <p>* ラピダス視察会に石狩・胆振の首長とともに参加。4 月のパイロットライン開始に向け作業の遅延もないとのこと。相乗効果に期待。</p> <p>* 金澤苫小牧市長が当選。岩倉前市長には国への要望活動などで多岐に亘って連携してきた。今後も苫小牧市を中心市とした定住自立圏の取り組み推進など、引き続き連携</p>		

による発展を目指す。

- *DX推進の一環としてLINEを活用した「スマホ役場」12/23からスタート。自宅からマイナンバーを利用して証明書等の申請が可能に。
- *エネチェンジ社との連携により昨年12月に公共施設へのEV充電設備の設置が実現。また昨日、プルテウス社と安平町への進出協定を締結。町内で初めてのIT企業。
- *大詰めを迎えている令和7年度予算は物価高騰の影響を受け、大変厳しい編成作業となったが、身近な施設でのエアコン設置等も含めてですが、そうしたゼロカーボンシティの推進など、様々な課題にも着実に取り組んで参りたい。

3 協議・調整事項

(渡邊課長)

総合教育会議につきましては、議案の2ページ目にあるとおり、安平町総合教育会議設置規定第4条第3項の規定により、町長が議長として進行いたします。

(町長)

それでは、議事進行させていただきます。議案1ページの3の協議調整事項「(1) 令和7年度の主な教育予算について」説明願います。

——(1) 令和7年度の主な教育予算について——

(渡邊課長) 【令和7年度予算編成方針の概要説明】

- ・まず、私の方から、令和7年度の予算編成にあたって、職員に周知いたしました基本的な方針と予算編成状況について若干説明いたします。
- ・まず、安平町における今後の財政の見通しとしましては、後期財政計画においてもお示ししていることではありますが、昨今の社会情勢や物価高による人件費、燃料費、光熱水費の経常経費や資材の高騰などの大きな変化を、町税や普通交付税の自主財源で吸収し対応することは難しい状況にあります。これらは、早来学園整備事業などの復興関連事業の借入に伴う地方債の償還に加えて重くのしかかる町財政への負担であり、令和7年度の予算編成作業は例年以上に困難なものとなっています。
- ・半導体メーカー「ラピダス」の千歳市進出に伴う居住先の確保などの新しい動きも予想されているものの、それ以上に物価高騰の影響が長く大きいことで先行きを見通すことが依然として困難な状況にあることを念頭に、財政構造の弾力性の維持や財政運営の健全化を図っていく必要があります。
- ・今年度末には、大型事業であり復興関連事業に位置付けている早来公民館の大規模改修が完了します。厳しい財政状況にありながらも、まちづくりの将来像である『育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち』の実現に向け、第2次安平町総合計画後期基本計画との整合を図り、それ以外の通常事業については、職員一人ひとりが本町の財政状況や今後の財政見通しを十分認識し、引き続き住民サービスや地域経済を支える取り組みを行いながら、前例にとらわれることなく、時代のニーズを的確に捉え、各政策・事業、事務事業の廃止、見直しを行い、限られた財源を最大限有効に活用することで、財政計画に基づく持続可能な財政運営を確保しつつ、総合計画や総合戦略に基づく諸施策を積極的に推進するよう職員に指示をしてきたところでございます。
- ・それでは続いて、教育委員会から主な教育予算について説明をお願いしたい。

(永桶教育次長・佐々木参事) 【令和7年度の主な教育予算の概要説明】…資料1

資料1に基づき、学校教育グループ所管事業は永桶次長から、社会教育グループ所管

会議概要

事業は佐々木参事から説明。

- ・あびら教育プラン推進事業は継続事業ではあるが、令和7年度は特に教員支援に力を入れて参りたい。
- ・**学校教育環境整備事業**では、追分中学校の家庭科室や技術室の工事などを行い、町内で見ても教育環境に差がある部分を改善して参りたい。
- ・スクールバスは老朽化による更新だが、乗車児童の増に合わせて56人乗りに拡充する。
- ・文化・スポーツ大会参加助成事業は継続事業だが、要綱改正を予定。改正内容の詳細は後日改めて教育委員にお示ししたい。
- ・町民センター・スポーツセンター指定管理者制度導入事業は、大規模改修の完了に伴う指定管理に関する経費。そのほかに町内外へのPR業務も実施予定。

【質 疑】

(町長)

ただいま教育委員会事務局から説明がありましたが、これまでの教育委員会議の中でも情報共有されているものも多いと思いますが、改めて皆さま方から何かご質問ご意見ありましたらお願いしたい。

(委員)

教員働き方改革・ICT推進事業について、「教員用 iPhone 導入（全校）」と記述されているが、全校の教員の iPhone を入れ替えるのか。

(永桶教育次長)

iPhoneは入れ替えるのではなく、通信料などのランニングコスト。事業費の多くはICT専門員の人件費である。

———(2)安平町教育大綱（素案）について———

(町長)

それでは、教育大綱（素案）について入りたいと思います。本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が総合教育会議において協議を行いながら策定するものでございまして、安平町の場合は、生涯学習計画をこの大綱に位置づけて策定を行っております。このたびその素案を作成いたしましたことから、皆さまにご意見・ご質問をいただければと存じます。それでは説明をお願いします。

(野本主査、笹山主査)【安平町教育大綱（素案）】…資料2

- ・資料2に基づき、学校教育グループ笹山主査、社会教育グループ野本主査から説明。
- ・いろいろな人に手に取ってもらいたいとの思いから従来に比べデザインを大きく変更した。また、これを読めば安平町の教育に対する考え方が全てわかるように思いを込めて作成した。
- ・今回の第4期計画はこれまで以上に町民目線、町民の方々の意見を多く盛り込んで作成した。
- ・計画の表紙を「きょういく」とした経緯については、こども家庭庁から子どもの権利関連の計画策定を進めていくよう話が出ていたり、子ども・子育て支援事業計画という子どもの教育・保育環境の確保などに関する計画も同じく計画変更のタイミングであったこと。また、計画の内容的にも重複する部分があるということから、これら計画を一体的に策定ができないかという視点で、内部協議を進めてきたところ。
- ・プロジェクトチームを組成し、教育委員会だけでなく政策推進課や地域おこし協力隊も含めたメンバーで策定に当たった。
- ・所々、ストーリー仕立てにしており、そこがまさに教育まちづくり委員からの実話や

意見を表現しているところであり、第4期計画のビジョン「豊かな人が育つまち～自分をつくる、自分を生きる～」を設定した基礎にもなっている。100人会議の中でも、子どもでも大人でもワクワクして何かに取り組んでいる姿は、人生を豊かに生きているというご意見も多数いただきまして、この方向性で安平町の生涯学習を進めていって間違いないだろうと確認をすることができた。この計画は、生涯にわたって自分らしくいきっていくことを実感できる教育環境にしていくための計画である。

- ・注目を集めているこれまでの取り組みについても、トピックスとして所々に見せるようにしている。
- ・町の教育はこうしていくという書き方だけではなく、「町民自ら何ができるんだろう」という視点でも表現している。
- ・P13の人口数値は誤った状態で掲載されており、今後精査するものとしてご承知おきいただきたい。

(町長)

ただ今、教育委員会事務局より説明がありましたが、皆様の方から何かご質問、ご意見はございますでしょうか。策定完了まで、今後ご意見をおうかがいする機会はございますが、時期が早いほど反映もしやすいことから、忌憚なくご発言願えればと存じます。

(委員)

事前配布されて、最初見たときに素晴らしいものができたなという印象を受けた。素案作成、お疲れ様でした。完成した際には公民館など、多くの方の目に触れるように広く配架・配布すべきだと考えるがいかがか。多めに印刷製本するなど検討いただきたい。

それからP47以降の子どもにやさしいプロジェクトの内容をもう少し厚くしたほうが、良い取り組みがもっと広まると思うのでご検討いただきたい。

(笹山主査)

多くの方の手に取ってもらいたいとの思いで作成してきましたので、完成後も多くの目に触れるよう対応して参ります。

(委員)

私も本当に今回の教育大綱は素晴らしい出来だなという印象。「多様性を尊重」の記述があるが、国際的にも日本はこの分野は遅れている。素案にはインクルーシブ教育の言及がないが、何か理由はあるか。

(野本主査)

インクルーシブ教育を排除したということはない。大きな考え方を大切にし、こんな事業をやっていきます、というような従来のような具体的な事業を書くことはしない方針で作成してきたので、インクルーシブ教育という事業ベースでの書き方は用いなかった。

(委員)

外国人との共生、特別支援教育の推進などを含めて、これからはインクルーシブ教育には取り組んでいく必要があると考える。

(町長、教育長)

ご意見のあった具体性の部分は、他の計画や執行方針などで書いていくということで、検討して参りたい。また、インクルーシブ教育が誤った認識で広がらないように、正しい理念浸透の取り組みとともに言及については少し長い目で検討して参りたい。

(山田地域プロジェクトマネージャー)

従来一般的な計画から今回の大きな変化は、意志が見えて良いことだと感じている。

そして、自分たちが主体的に何をする？という問いかけなんだと、計画書から感じた。一方で、そこから生まれた声や考えが行政に届くように、声の受け皿の仕組みも併設が必要だと感じた。

(笹山主査)

「やりたい」が集まる場として、今後オンラインプラットフォームの導入を予定。そうしたことから声の受け皿を発展させていきたい。Slackを活用した「あびらさる」というオンラインコミュニティの運用を試行的に始めており、すでに50～60人が参加しており、今後のプラットフォームの下地ができている。「あびらさる」は、名のとおり、あびらのことに自然とかかわりたくなるものにしていきたい。

(委員)

難しいことを書いていなくて、読みやすくとても良いと感じた。細かい点だが、P50の2行目「私夫婦は」とあるところは「私たち夫婦は」などに修正を。

(町長)

ご意見等は以上でしょうか。3月にも委員の皆さんに再度ご意見をうかがう予定とのことですので、引き続きご意見をお寄せいただきたい。なお、6月の議会で完成を報告できるように進めていく予定。

———(3)その他———

(町長)

その他の部分でいかがでしょうか。

(委員)

教育長には以前にもお願いしたが、地域おこし協力隊の人、特に教育関係の人は3年で終わってしまい転出してしまう印象。任期後も働けるような環境づくりに努めていただきたい。

(参事)

当町では隊員の活用類型を3類型、新年度からは4類型設定しており、多様な関わり方を用意することで安平町に関わりやすくするためのもの。その上で、本人の希望も踏まえて、委員のおっしゃるように任期を終えても残って活躍していただけるように進めて参りたい。

(町長)

地域課題突破型、創業者誘致型、企業経営強化型、そして来年度からは高度専門人材型を加えてと、10年以上前の導入当初は定住だけがゴールという設計だったが、現在は参事の言ったように、定住だけではない、いろいろな町との連携の形、地域おこしの形があって良い、ということで現在がある。その点は議会や町民でも誤解や認識いただけていない部分はまだあるのかもしれないが、全国を見ても、そうしたうまく活用できているところが協力隊活用してまちづくりの成功に結びつけているのだと認識している。

(委員)

道の駅の裏の小学校の東側の斜面を冬休みにそりで坂で遊んでいる子を多く見かけた。スケートリンクとかも含めて難しい状況にはなってきているが、そういう冬の居場所、遊び場が必要なんだと改めて感じた。

(教育長)

私も小さな頃に遊んだ場所。来年度、あの斜面を活用して遊べる用具や環境は考えている。ただ、何でも町だけで整備するわけではなく、CFCIの町ですので、いまある環境を充実させていくことをみんなの手で進めていきたいと考えている。

(永桶教育次長)

スキー授業に代わる授業の検討にあたっては、子どもたちがやりたいことを、子どもに意見を聞きながら進めて参りたい。

(委員)

不登校の子が増えていると聞いている。不登校の定義をもう少し緩和できないか。例えば、学校とは異なる場所からタブレットでの授業参加はできる子は不登校ではないとか。周りに家族等がいる状況でもいいとか。自宅から外に出ることが大事だと考えている。小さい町だからこそできるのではないかと思う。

(委員)

以前、研修会で札幌市の学校で、そうした形態でも授業を受けたとして時間が換算されると聞いたことがある。

(小笠原参事)

早来学園でも不登校が増加傾向にあるのは事実。安平町ではまだ恒常的に可能にはなっていないが、タブレットを使って授業に参加できるようにしたり、少し朝遅れて9時過ぎにまなびおまで来て過ごしたりなど、少しずつ環境改善等を実践している。一人ひとりケースにもよるという要因もある。出席扱いの要件については、フリースクールなど道教委が示す条件を満たせば認めるという方針や基準もでてきている。

(教育長)

校内支援センターを来年度から検討する。そこで必要だとなれば、国庫補助等を活用して、不登校になる前に、そして不登校状態になってもサポート体制があるという環境を検討して参りたい。

(終了 午後4:00)